



<岡 明 座長 紹介>

略歴

- 1984年 東京大学医学部附属病院小児科入局
 - 1990年 米国Harvard大学Boston小児病院神経科研究員
 - 1998年 鳥取大学医学部脳神経小児科助教授
 - 2004年 国立成育医療センター神経内科医長
 - 2007年 東京大学医学部小児科准教授
 - 2009年 杏林大学医学部小児科教授
 - 2013年 東京大学大学院医学系研究科小児科教授
 - 2020年 埼玉県立小児医療センター病院長
- 現在に至る。

役職(学会等)

- 日本小児科学会 理事
- 日本小児神経学会 監事
- 日本保育保健協議会 副会長

専門分野

小児科学、小児神経学

イントロダクション

多様な子どもたちの心を育むために

埼玉県立小児医療センター 病院長

岡 明

2026年1月30日 第46回母子健康協会シンポジウム

「“発達”と“愛着”の視点から、子どもの心を育む課題を考える」

保育所のいわゆる「気になる子」

2016年3月 日本保育協会調査報告より

- いわゆる「気になる子」とは
障害の診断は受けていないが、障害の疑いが感じられる子ども
や保育上の支援を要する子ども
- 受け入れの実態
9割以上に「気になる子」がいる
- 気になる内容（頻度順）
 - ・発達上の問題（発達の遅れなど）
 - ・コミュニケーション（やりとり・視線・集団参加など）
 - ・落ち着き（多動・落ち着き・集中力など）
 - ・情緒面（乱暴・こだわり・感情のコントロール）
 - ・運動面（ぎこちなさ・不器用など）



発達障害の特性のある子ども

「2016年 日本保育協会 保育所における障害児やいわゆる「気になる子」等の受け入れ実態、障害児保育等のその支援の内容、居宅訪問型保育の利用実態に関する調査研究報告書」より引用

保育所のいわゆる「気になる子」

2016年3月 日本保育協会調査報告より

「大変むずかしい」あるいは「むずかしい」という回答の割合

●保育の現状：

- 集団での保育（82%）
- 園外での保育（69%）
- 行事の企画運営（71%）

●その子自身への対応：

- こだわり・パニックへの対応（78%）
- 生活習慣の確立（69%）
- その子についての理解（73%）

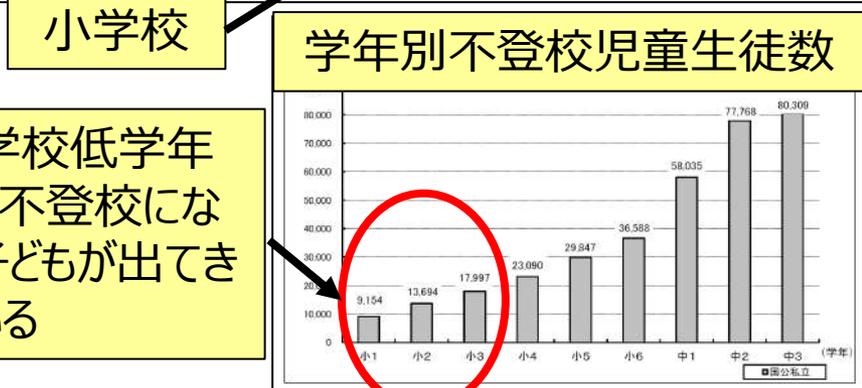
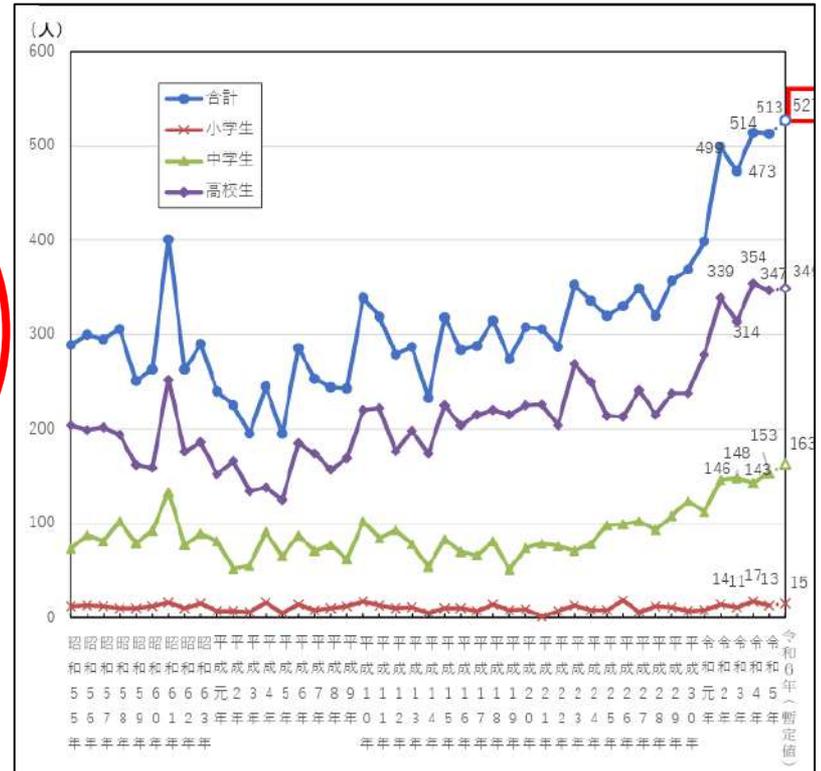
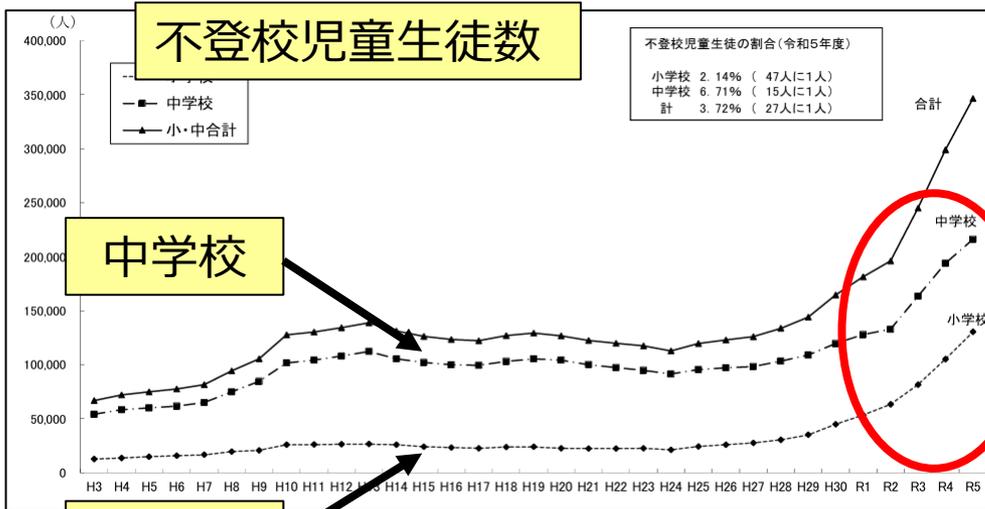
保育士さんや幼稚園教諭の方も困っている
こどもたち自身が一番困っている

「2016年 日本保育協会 保育所における障害児やいわゆる「気になる子」等の受入れ実態、障害児保育等のその支援の内容、居宅訪問型保育の利用実態に関する調査研究報告書」より引用

不登校など学童期のこどもの心の問題が深刻化しています

2015年頃より不登校児の急激な増加傾向
小学生の不登校の急増が深刻

小中高校生の自殺数
中高生の自殺の増加



就学前からの支援が必要です

文部科学省令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について
こども家庭庁【令和6年(暫定値)】小中高生の自殺者数年次推移

こどもの社会的環境も大事です

健康を決定する社会的要因 (Social determinants of health)

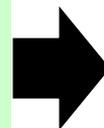
- こどもの育つ環境：貧困、虐待・ネグレクト等などの恵まれない環境
- 成人期の健康に深い影響を与える健康の課題であることが明らかに。
- こどもの時期からの介入の重要性が認識されてきています。

逆境性小児期体験 (Adverse Childhood Experiences)

Felitti VJ. Am J Prev Med. 14:245, 1998.

小児期の逆境体験

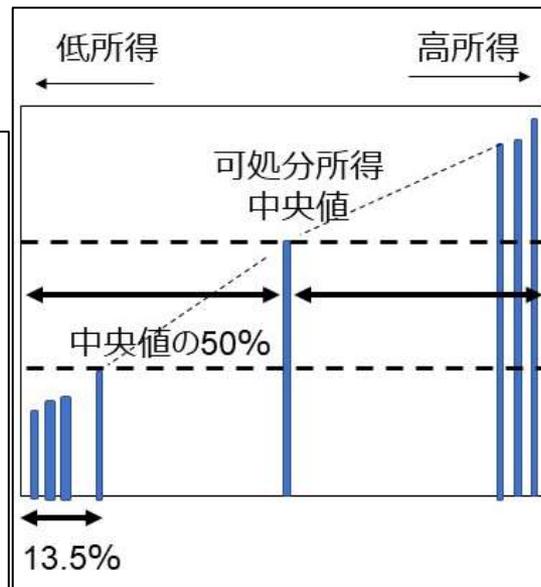
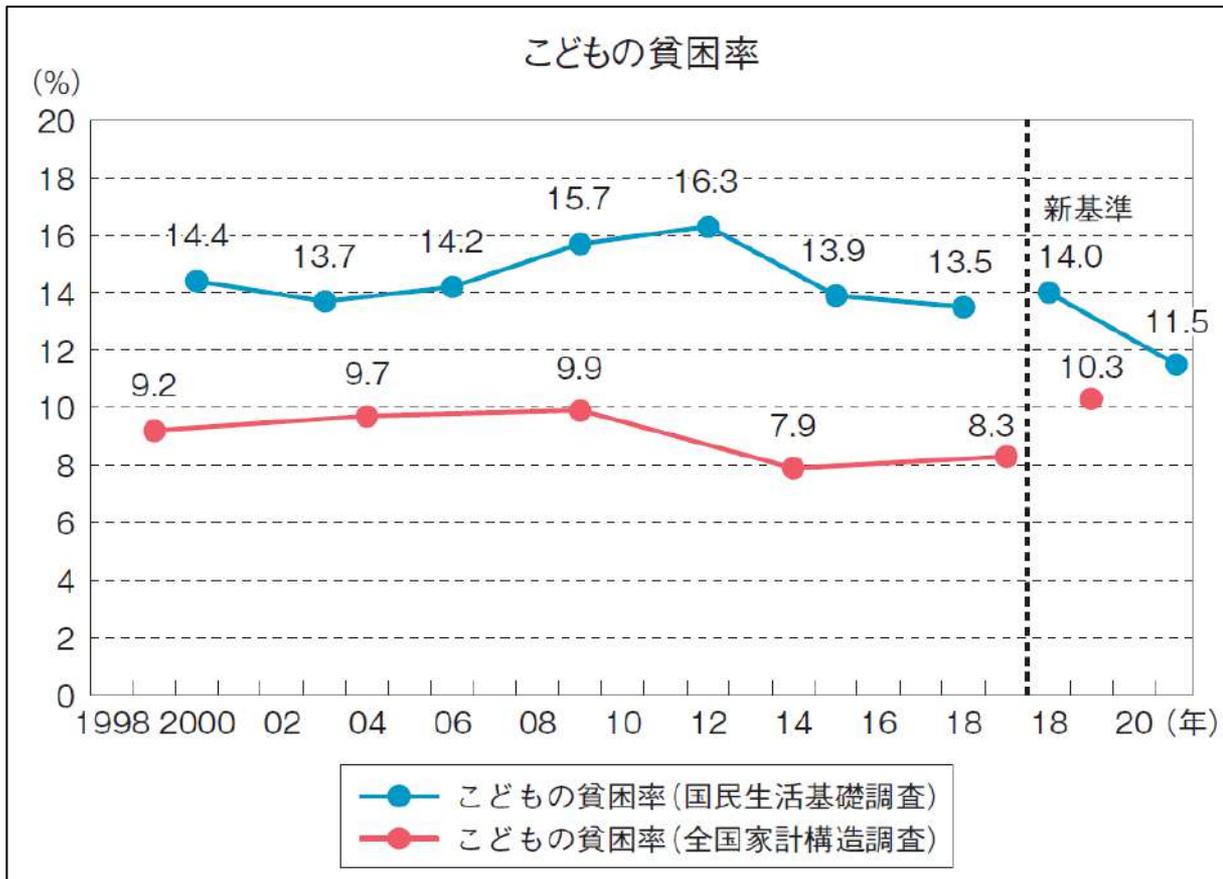
- 虐待 心理的、身体的、性的
家庭内暴力
- 家族内に 精神疾患、自殺、
薬物中毒、犯罪での収監等



成人期の健康への影響

- 健康リスクや疾患の増加
- 健康リスクとなる行動
- 精神疾患（うつ等）や自殺
- 肥満
- 心臓疾患、がん、慢性肺疾患の罹患

こどもの9～10人に1人は相対的貧困



こどもの貧困は見えにくいですが、こども達の健康に影響する重要な因子

➡ Social determinants of health
(健康の社会的決定要因)



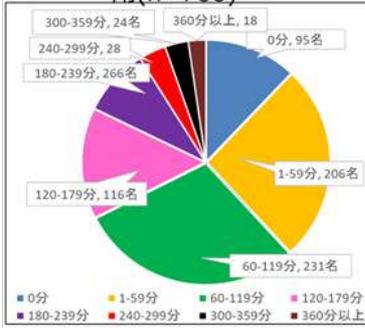
内閣府子供の未来応援国民運動
<https://kodomohinkon.go.jp/hinkon/>

学童期思春期の生活習慣の課題

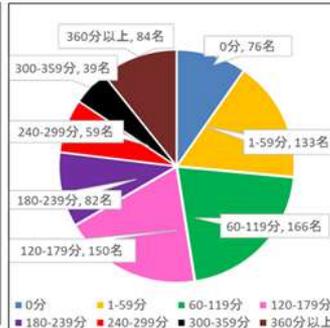
メディア・ゲーム

公立中学校8校の中学1年生におけるネット・ゲーム依存の実態調査（横断調査：中山）

平日のネット利用時間
60%以上が1時間以上利用(n=788)

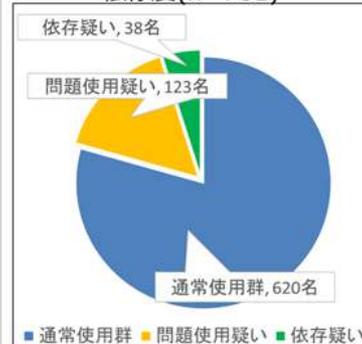


休日のネット利用時間
約四分の三が60分以上利用(n=789)

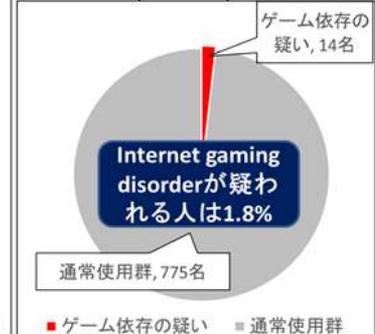


公立中学校8校の中学1年生におけるネット・ゲーム依存の実態調査（横断調査：中山）

Diagnostic Questionnaireによるネット依存度(n=781)

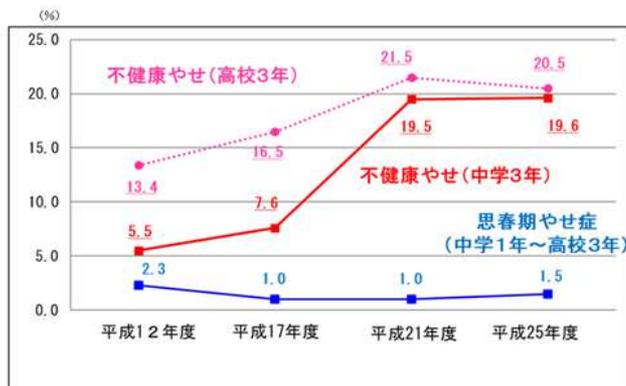


DSM-5によるInternet gaming disorderの疑われる人(n=789)



食事・やせ

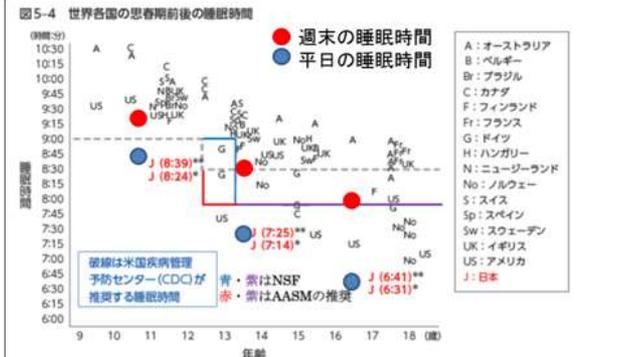
中学生での不健康なやせの増加（永光）



年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
割合	1.9%	2.0%	1.8%	1.9%

睡眠

我が国の学童思春期の児の睡眠時間は海外に比して短い（神山）



Olds T. et al. Sleep. 2010;33(10):1381-6. より一部改変
*本調査結果より19年度(18年度)の調査結果に基く(横断)より
**統計値入。日本学校保健会「平成20年度 児童生活の健康に関するサーベイランス調査報告書」より

生活習慣：メディア視聴

テレビやスマートフォンなどを長時間見せないようにしていますか・
寝る直前にテレビや動画を観ますか。

メディアの利用状況や健康への影響

視機能、運動器、メンタルヘルスなど

メディア視聴の内容や態度についても注意して確認する

いつ、何を、誰と、どんなふうに

家族の状況も聞き取る

家族でルールを決めているか

家族がルールを守れているか

待合の様子も含めて、こども・保護者のスマホ利用等の状況を確認

利用時間：推奨は1時間以内

食事中、就寝の1時間前は避ける

暴力的・刺激的、倫理的に問題がある内容は避ける。

保護者が一緒に視聴 ➡ 内容についても会話

➡ 学習効果、情緒面安定

こどもだけでなく、家族全員のメディア利用も同時に見直しましょう

メディア利用の5つのC（アメリカ小児科学会）

- Child（子供の特徴）
- Content（コンテンツの質）
- Calm（落ち着いた環境）
- Crowding Out（他の活動を妨げない）
- Communication（親子の会話）

「保育」はこども・子育て政策の核の1つ

こども家庭庁 2023年3月



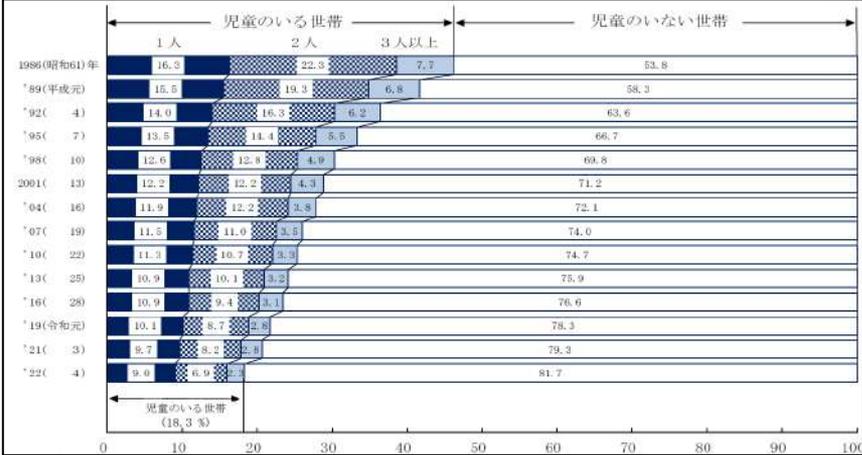
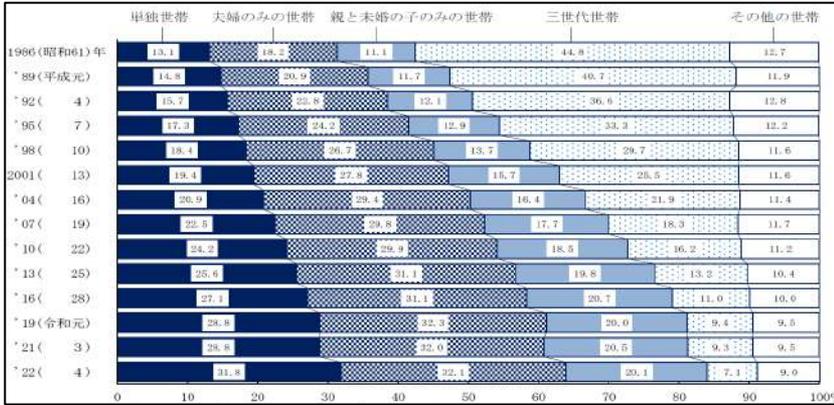
こども・子育て支援加速化プラン(今後3年間) 2 全てのこども・子育て世帯を対象とするサービスの拡充 主なポイント

- ✓ 幼児教育・保育の質の向上
～75年ぶりの配置基準改善と更なる処遇改善～
- ✓ こども誰でも通園制度（仮称）の創設
～就労要件を問わず、
全ての子育て家庭が保育所を利用できるように～
- ✓ 病児保育、学童、社会的養護、ヤングケアラー、
障害児、医療的ケア児、ひとり親家庭などの支援体制強化

こども誰でも通園制度（仮称）

三世代世帯は7%
核家族化は進行

こどもが1人の家庭が約半数
こどものいる家庭18.3%
こども一人の家庭9.0%



保育園利用率の上昇



核家族がほとんどの中で
在宅で子育てをする家庭が
社会的に取り残される状況

厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/dl/02.pdf>
こども家庭庁HP「保育所等関連状況取りまとめ（令和6年4月1日）」

課題のある家庭の支援の輪の中で
重要な役割を期待されている

子ども
健康な心と身体

家庭

孤立した育児

こどもの貧困

育てにくさ

保育

虐待ネグレクト

地域社会

マクロ社会的因子

自然・政治・歴史的・国家的出来事、経済状況・基準や価値観

保育関係者の皆さんが持つ強み

子どもをプロとして評価
する力

子どもの課題を支援す
る力

保護者の子育てを
評価する力

保護者の困りごとの相
談に対応する力



家庭の最も身近な
パートナーシップ

家庭と地域のネットワークを
つなげる役割

こども誰でも通園制度の意義

「こどもに対する専門的な理解を持つ人」の役割りが期待されている

- こどもの成長の観点から
 - 自宅で子育てをする世帯のこどもは、同世代の他の子どもと触れ合う機会が持てなくなっている。
 - こどもに対する関わりや遊びなどについて専門的な理解を持つ人の支援を受けて成長していくことができる。

- 保護者の観点から
 - 在宅で子育てをする世帯の保護者は孤立感や不安感を抱えながら子育てを行っている。
 - 月に一定時間でも、こどもと離れ自分のための時間を過ごすことで、育児に関する負担感の軽減につながる。
 - 保育者からのアドバイスや育児方法の模範を見せてもらい成長する。
 - こどもに対する専門的な理解を持つ人との関わりにより、こどもの育ちを喜び楽しさを実感できるようになる。

こども誰でも通園制度（仮称）」の創設へのスケジュール

- 全ての子育て家庭を対象とした保育の拡充～「こども誰でも通園制度（仮称）」の創設
 - 2023年度～ 本格実施を見据えた試行的事業の開始、制度実施の在り方について検討
 - 2025年度 子ども・子育て支援法に基づく事業として制度化、実施自治体の増加
 - 2026年度 子ども・子育て支援法に基づく新たな給付として全国の自治体においてを実施

異次元の少子化対策

保育はその核 期待は大きい

少子化など社会の変化
保育を国として重要視



全家庭の子育て家庭支援
の拠点



保育への期待 広がる社会の中での役割

こどもの貧困
虐待ネグレクトの増加



地域と連携し地域の子育て
支援拠点として



良質な保育の提供が日本社会の未来に重要

本シンポジウムでのこどもの心の課題への取り組み 皆様からの声に応えて

第42回（2022年）「乳幼児の心と体の健康」

●秋山 千枝子先生（あきやま子どもクリニック院長）

気になる子どもとその対応・・・発達に課題がある子どもや家庭に問題がある子どもへの対応

第43回（2023年）「乳幼児の心理発達に必要なアタッチメント（愛着形成）」

●遠藤 利彦先生（東京大学大学院教育学研究科教授）

乳幼児の心の発達とアタッチメント...「安心感の輪」と「一人でいられる力」の大切さ

●田中 恭子先生（国立成育医療研究センター こころの診療部 児童・思春期リエゾン診療科診療部長）

子どもと愛着、その支援を考える

本シンポジウムでのこどもの心の課題への取り組み 皆様からの声に応えて

第44回（2024年）「発達や行動が気になる子供への園での対応」

- 広瀬 宏之先生（横須賀市療育相談センター 所長）

発達障害支援のコツ

- 佐々木 美恵先生（埼玉学園大学人間学部心理学科教授）

発達や行動が気になる子どもと保護者への支援

第45回（2025年）「こどもの発達を促す接し方と保護者への支援」

- 金原 洋治先生（かねはら小児科 院長）

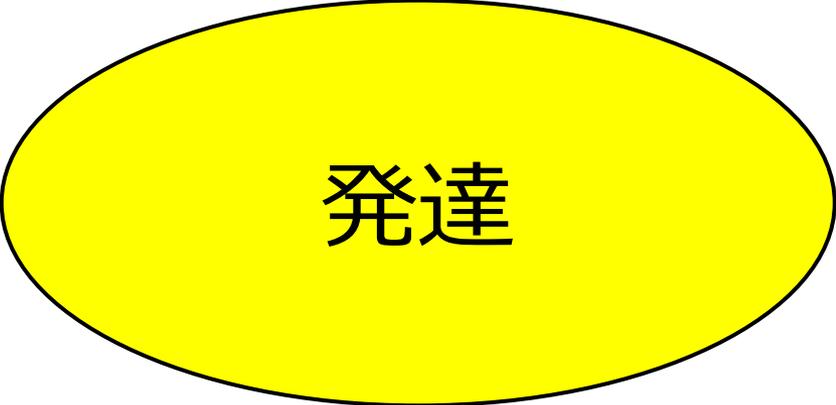
行動が気になる子ども気づきのポイントと対応法ーすべての子どもの未来のために役だつと思うことー

- 長瀬 美香先生（心身障害児総合医療療育センター 小児科医長）

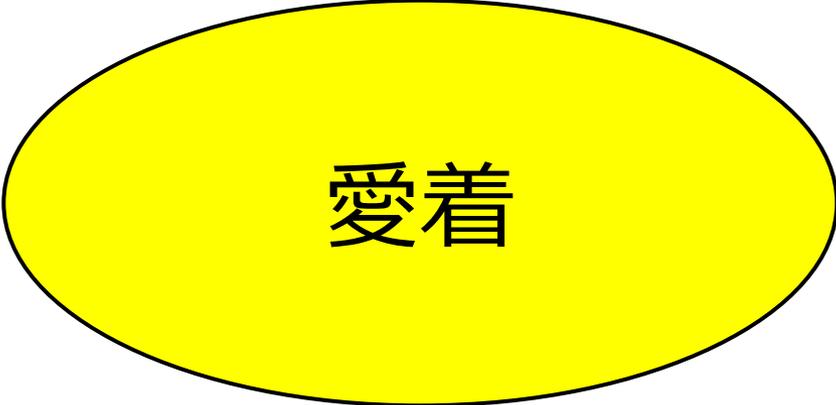
気になる子どもを伸ばす保護者への支援～ペアレント・トレーニングの視点から～

今回のシンポジウムの趣旨

「発達」と「愛着」の視点から、子どもの心を育む課題を考える」



発達



愛着